

葛屋重三郎  
コンテンツビジネスの風雲児

2025年  
4.22火・6.15日 **TNM** 東京国立博物館 平成館  
TOKYO NATIONAL MUSEUM [上野公園]  
中学生以下は観覧無料です

葛屋重三郎

最後の賭け

重要文化財

三代目大谷鬼次の  
江戸兵衛（部分）東洲斎写楽 大判錦絵  
寛政6年（1794）  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

東洲斎写楽

〈1763～1820〉

絵師

役者の大首絵を描き一世を風靡。10ヶ月の活動期間で大量の役者絵を葛屋の元から刊行。

葛屋が交流した大物文化人たち

序文を依頼

平賀源内

〈1728～1779〉

発明家・戯作者

江戸の科学者であり発明家として有名。戯作者（作家）、俳人（俳句を作る人）としても活躍。葛屋初吉原ガイドの序文を依頼。

大田南畝

（四方赤良）

〈1749～1823〉

狂歌師・戯作者

天明狂歌を代表する狂歌師（しゃれや皮肉をきかせた短歌を作る人）で、蜀山人の名でも知られる。評論家・批評家としても活躍。

## 葛屋重三郎とその仲間たち

江戸時代を代表する名プロデューサー「葛屋重三郎」こと葛屋重三郎。

ヒット作やスターを次々に世に送り出した背景には、

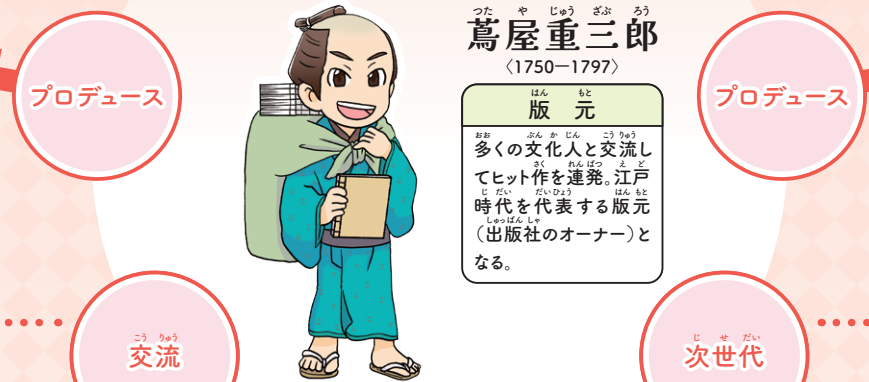
新しい才能、組み合わせを生み出す文化人ネットワークがありました。

葛屋は、生まれ育った吉原で各界で活躍する江戸の代表的な文化人と交流し、

そこで築いた人的ネットワークを活用して、新しい才能を見出したり、

組み合わせてヒット作やスター絵師を次々に世に送り出しました。

躍進のカギは、築いた葛屋ネットワークと卓越したアイディア！



葛屋重三郎

〈1750～1797〉

版元

多くの文化人と交流してヒット作を連発。江戸時代を代表する版元（出版社のオーナー）となる。

交流

プロデュース

次世代

葛屋が頼りにしていた

戯作者・絵師たち

洒落本・黄表紙を依頼

山東京伝

〈1761～1816〉

戯作者・絵師

葛屋の盟友。戯作者として多くの黄表紙・洒落本をのこすとともに絵師としても活躍。

プロデュース

栄松斎長喜

〈生没年不詳〉

絵師

美人画で知られるほか、役者絵や黄表紙の挿絵もこの。

葛屋が育てた

スター絵師

美人画・狂歌絵本を依頼

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

葛屋に才能を見出され、美人画の大首絵が大ヒット。スター絵師になる。

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

絵師

喜多川歌麿筆 大判錦絵  
寛政4～5年（1792～93）頃  
東京国立博物館蔵  
前期展示：4/22～5/18

喜多川歌麿

〈1753?～1806〉

# 解剖！江戸の本屋さん

**版元**  
 出版物の企画・製作・印刷・製本・販売をすることで、いまでもいうと出版社と書店を兼ねたようなお店でした。版元には、書物問屋と地本問屋の2種類がありました。

**【書物問屋】**  
 書物（仏教、儒教、医学のような学問などの学術書のこと）を扱う問屋。  
**【地本問屋】**  
 地本（江戸で出版された草双紙（大衆的な絵入り小説本）など）を扱う問屋。本のほかに浮世絵なども扱っていたので「絵草紙屋」とも呼ばれました。

私は地本問屋からはじめて、のちに書物問屋にも加わっていろいろな書物を販売したんだ

**貸本屋**  
 当時本は高価なものであったので、江戸の庶民は仕入れた本を貸出し、レンタル料をとる「貸本屋」から借りて読みました。

私も最初は貸本屋からスタートしたんだよ



吉原で生まれた葛屋重三郎は、23歳のときに育った家で貸本屋をはじめ、25歳で吉原のガイドブック（吉原細見）を編集し自分で出版するまでになります。28歳で吉原五十間道に自分のお店「耕書堂」を構え、34歳のときに日本橋通油町に出店しました。その頃の江戸の街では新しい本や絵が次々と発表され、日本橋にはたくさんの版元が並び立っていました。葛屋の「耕書堂」も売れっ子版元に仲間入りしました。

インターネットやテレビ、雑誌など情報入手の手段が色々ある今とちがって、江戸時代は、何といても出版物がメディアの中心でした。出版物は、大切な情報源であり、娯楽であり、広告媒体であり、流行の発信源でもありました。

私は吉原で茶屋の軒先をかりて小さな本屋をやっています

吉原のひとたち相手に本を貸したりしてただけ

自分で本を作った版元になると面白そう

しまいにや日本橋に自分の店をだして大成功したんだぜ！

私は黄表紙（絵入りの小説）でたくさんのヒット作を出版したんだよ

# 密着！江戸時代の本の作り方

江戸時代の本は、主に木版印刷で多くの人たちの共同作業によって作られました。



## 浮世絵ってなに？

浮世＝今の世の中や人々の様子をテーマにした絵で江戸時代に発展しました。主に内筆画（紙などに筆で描いた絵）と木版画（絵を彫った木の板を使って印刷する手法）があり、木版画は大量生産できたため庶民にも広く親しまれました。美人画や役者絵、名所絵、武者絵、戯画など、色々なジャンルがありますが、喜多川歌麿は主に美人画、東洲斎写楽は役者絵が有名です。

いまでは美術品として高価な浮世絵だけど、当時はコックと同じくらいの値段で買うことができる庶民の楽しみだったんだ

**お名前**  
 葛屋重三郎のように、自分のイラストと名前、キャッチコピーを書いてみよう！

**葛屋重三郎**  
 コンテンツビジネスの風雲児